



修文錬磨

～学び、鍛え、磨く～

令和8年5月26日
第6号
八幡平市立西根中学校
(文責：高橋 茂)

日々の積み重ねが美しさになります



4月20日(月)
朝7時の風景です。桜が満開に咲いています。見慣れた風景がもしもませんが、息を飲むほど美しいと思いませんか。

桜の季節そして体育祭が終わりました。生徒のみなさんは、今どういう気持ちで学校生活を送っていますか。中総体やコンクール、期末テストなど次の目標に向けて気持ちを切り替えられているでしょうか。

みなさんの中には、もしかしたら「祭りの後のさびしさ」を感じている人もいるかもしれません。祭りの後のさびしさとは、大きな楽しみごとが終わった後、何となく心にぽっかり穴があいていることを言います。誰しもが持つ感情です。昔の日本人も、祭りの後のさびしさを感じるものがきっとあったのでしょう。

平安時代の貴族 在原業平(ありわらのなりひら)は次のような歌を残しています。

世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし

「もし桜がなければ、もっと穏やかに春を過ごすことができるのに」という意味になります。「いつ咲くのかな」「いつ散っちゃうのかな」、そんなせわしない心の揺れを嘆いています。もちろん、「桜なんて咲かない方がいいのに」という思いではなく、桜を愛する心を歌っています。咲いている時よりも、散る時にこそ、心に訴える桜。やがて散ると分かっているからこそ、満開の瞬間はかけがえのないものとして輝きます。体育祭や青春の瞬間の輝きもそうです。その儂さ(はかなさ)の中にこそ、私たちの感性を揺さぶる美があります。『もののあわれ』が息づいています。もののあわれとは、目の前の物事や出来事のうつろいやすさ・儂さに心を動かされ、しみじみと深く感じ取る日本独特の美意識・感性のことです。在原業平の歌に応えた作者不詳の歌もあります。

散ればこそ いとど桜はめでたけれ うき世になにか 久しかるべき

「散るからこそ桜は素晴らしいのです。この世に永遠のものはどこにもないではありませんか」。ひととき咲き、やがて静かに散っていく。人の一生もまた限りがあり、いつか終わりを迎えます。だからこそ、桜の散り際に心を動かされます。私たちの人生も日々を丁寧に生きるその積み重ねが、ふと振り返った時に、ささやかな美しさとして残るのだと思います。桜は散っても、体育祭は終わっても、あの時の光と色、彩りは心に残っています。その彩りは、私たちが生きる時間に寄り添い、必ず人生を豊かにしてくれます。

「目標を持つこと」「言葉を大切にすること」「常に考えること」を大切に、そして、自然に触れる機会、自然を愛する心も忘れないでほしいです。

教育実習生が来ています

今年も教育実習生が西根中を訪問しています。期間は6月12日（金）まで。西根中の卒業生が教師を目指している姿をとっても頼もしく喜ばしく感じています。学校として精一杯のサポートをしていきたいと考えています。紹介式での西中生の歓迎の言葉やエールも大変立派でした。さすが心で分かり合える西中生です。

人生は一度きりしかありません。中学生にとって、職業を決めるということは、まだまだ先のことのように感じるかもしれませんが、**将来を考えるとすることは、実は今を考えるとすること。**今が将来につながっていくのです。過去を振り返っても仕方ありません。大切なのは、いつでも“今”です。

少し大人の人生の先輩から、たくさんのことを感じ、学ぶ機会にしてほしいです。



さん

年度卒業

西根中時代の部活動

サッカー部、特設駅伝部

西根中卒業後の進路

高校 → 大学

さんに贈る言葉



1 西根中学校時代の思い出や頑張っていたこと

部活動ではサッカー部と特設駅伝部に所属し、毎日の朝練や部活動、父母会練習に励んだこと。

2 教師を目指す理由

子どもたちの成長に関わる仕事をしたい。

3 西中生へメッセージ

中学生でいられる時間は今しかない。この貴重な時間を後悔のないように全力で楽しんでほしい。



さん

年度卒業

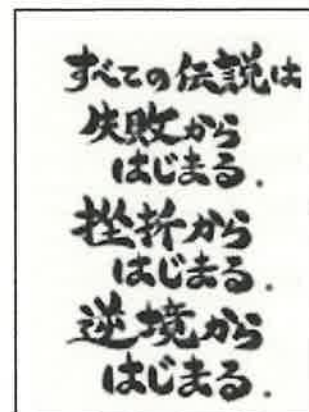
西根中時代の部活動

テニス部、特設駅伝部

西根中卒業後の進路

高校 → 大学

さんに贈る言葉



1 西根中学校時代の思い出や頑張っていたこと

合唱コンクールでピアノ伴奏を担当し、3年連続で金賞を獲ったこと。岩手県中学校駅伝競走大会で、西根中が初めて優勝したこと。

2 教師を目指す理由

自分の経験や生き方を生徒に伝え、生徒の人生選択に関わりたい。

3 西中生へメッセージ

中学時代に「本気でやってみた経験」は、これからの人生で必ず自分の力になります。